

富海ホタルだより

第26号 令和4年11月22日
『富海をホタルの里にする会』
事務局 富海公民館
TEL 34-0034

5月25日に新川で、採卵のためホタルの成虫55匹（メス16匹、オス39匹）を捕獲しました。成虫は飼育箱に入れ、産卵するのを待ちます。今年は6月末までに約6800匹の幼虫が孵化（ふか）しました。幼虫は富海公民館敷地内のホタル小屋水槽で、水温や酸素、水質の管理をしながら、エサのカワニナを与えて約4か月間飼育します。



捕獲したホタルの成虫は専用飼育箱で飼育。下に敷いたミズゴケに雌が卵を産み付けるのを待つ。



水を張ったトレイの上にザルを乗せ、飼育箱から取り出したミズゴケを置いておくと、孵化した幼虫がトレイの水面に落ちる。幼虫は水中で互いに集まって団子状にコロニーを作るので、一匹ずつスポイトでとって孵化数を確認する。

1～2 mmで孵化したホタルの幼虫は、秋までに1～2 cmに成長します。10月26日には富海小学校3・4年生の皆さんと、約2000匹の幼虫を脇地区の新川に放流しました。来年初夏に再びホタルが舞い飛ぶ幻想的な風景が見られることを期待しています。



放流直前の幼虫。脱皮を繰り返して大きくなり、肉眼ではっきりと姿が観察できる。春を迎えると幼虫は陸へ上がり、さなぎに姿を変えて羽化を迎える。



例年5月に開催している「ホタルまつり」や、夏の「ホタルの楽校」は、コロナ禍のため中止となったが、放流は子どもたちの手で行うことができた。